

葡萄の香



日本基督教団
酒田教会

〒998-0037
酒田市日吉町
1-1-7
TEL0234-22-1224
牧師 塚本恭子

聖書 コリントの信徒への手紙一

神の愛

13章5〜13節

牧師 塚本恭子

★愛は忍耐強い。愛は情け深い。

忍耐強いは寛容であることで、愛の広さをいいます。短気や怒ることの反対の言葉で、愛する者を気長に、辛抱強く待つことをいいます。情け深いは、愛の深さで、思いやりがあること、愛する者に優しく気遣うことをいいます。この寛容と思いやりは結合しています。愛のひろさと深さに包括される愛が八つあります。

○愛はねたまない。嫉むとは、水がくたくたと煮え立つ状態を示した言葉です。嫉妬に狂った心は、煮えくり返ると言われます。人は悲しむ者と共に悲しむことが出来

ても喜ぶ者と共に喜ぶことが出来ないと言われます。なぜなら嫉妬の心が生まれるからです。他人の成功や功績に嫉みが生じ、嫉むことによって愛を消滅させられるという、愛と悪は相反するが、紙一重のようなものです。

○自慢せず（誇らない）。高ぶらない。この自慢や高ぶりは、「嫉み」の裏返しとも言われます。自分が持っている優れたものを他者が持っているときりに嫉む。それが憎悪となり、悪意となる。高ぶりの感情は他人の心を傷つけ、自分の心も損うこと甚だしい。愛はいつも冷静にものごとを考えさせ、愛は私たちの魂のへりくだりを求め、うぬぼれを滅ぼします。

○礼を失せず（不作法をしない）。愛は無礼であったり、感謝を忘れたりしない。恐れるものは恐れ、敬うべきものは敬う。礼節をわきまえて信仰深い。愛のない人は人を人とも思わないが故に、敬愛の心に欠け、平然と他人に対して礼儀を失する。

○自分の利益を求めず。わがまま勝手に自己中心に事を決めない。愛は相手を喜ばせる。愛は、自分のエゴで考えない。自分の権利の主張のみで生きる人は、愛を忘却します。お金や物よりもっと大切なものが愛することです。

○苛立たない。自分の思いどおりに事が運ばないとたちまち「いらだつ」のです。それは愛のかけた状態です。愛は誰に向っても、腹を立てない。愛は、怒りに屈しない。どんな試練でも忍耐する。

○恨みを抱かない。人は少しでも自分が阻害されたことを執念深く覚えていて、恨みをいだく。他人から言われたことをいつまでも、繰り返し覚えていて、いつの間にか、恨みの虜となっているのです。恨みは怒りの原因にもなるのです。恨みは悪を生み出すことを知る事が大切。愛は決して恨みを生み出さない。悪の誘惑に陥らない。

○不義を喜ばないで真理を喜ぶ。真理は心の清潔と行動の正しさを生み出す。真理は神から生まれ、義は神に属する。愛は真実と義とをもつ。

★キリストの愛

パウロの言うような愛を私たちは愛することが出来るのでしょうか。私たちが愛するとき、完璧に、素晴らしい愛で、愛せる

のかと言われると人間である私たちは完全なる愛で、愛せない。時には寛容さを欠き、情の深さを忘れます。そして、嫉んだり、嫉妬したり、自分を誇って高ぶったり、人を人とも思わず攻撃したりします。でも、この愛は、神の愛です。神が私たちを愛している愛です。神が「私たちのためにすべてを忍んで下さっている。私たちの一人一人を信じ下さる。私たち一人一人に望み持つて下さる。私たちひとりひとりのためにキリストは耐えている」のです。これが私たちと神との愛の関係です。私が忍び、私が信じ、わたしが望むと考えてないで、キリストの愛がわたしの罪のために忍び、キリストの愛がわたしを信じさせ、キリストの愛がわたしに神の子等になることを望むのです。キリストが私たちのすべてに耐えて下さっているのです。私たちの心に注がれているキリストの愛は、主の霊が働いて、常に神の愛に私たちは満たされているのです。

★ 愛の完成

この愛は信仰によってより深く成長し、キリストによって完成されていくものです。愛の完成は、神との契約によって成り立ちます。あなたがキリストと出会ったときに神との交わりが始まり、神の愛が注がれて信仰が成長し続けています。愛は私たちが

神から与えられたもので、「御子イエス・キリストの十字架の贖い」によって、与えられたものです。それは「ただ十字架の救いを信じる」ことによって私たちに与えられたものが神の愛です。だから、幼い時は幼い者の様に考えたが、今は成人した大人であるので、何年も信仰をもって、主イエスと共に人生を歩んで来たものです。すなわち、今信仰が深められ、神の奥義を知らされているので、キリストの愛が私たちが愛の完成へと導いています。今、その愛の道を私たちは歩んでいることを知らされているのです。それ故に、世俗的にはたとえ、人生の苦難の中にあっても、私たちは、人生の「幸いに至る道」を歩んでいるので、もうすでに「死の勝利」得ています。永遠の光の中、ヨハネは栄光と呼んでいます。神の栄光を受けて愛の完成への道を歩んでいるのです。

★ 愛の希望

私たちの人生の現実、真に厳しく、肉体は日々衰え、次々と愛する者との別離があり大切なものをすべて失って孤独の道をとぼとぼと歩んでいます。私たちは、キリストの愛が心に注がれているので絶望しないうです。希望があるのです。常にそのキリストの愛が私たちの人生を共に忍び、キ

リストが示すその終末の時を、希望を持つて望んで生きられるから。私たちは今日の日もキリストに結ばれて、キリストの現臨を信じて生きているのです。先ほどの讃美歌の463番の「愛の小さき業すらも、地をば、神の国となさん」と、私たちの心にはどんなに小さい愛でも、キリストの愛が注がれているので、生きる命の讚美となるのです。現実状況がどのように厳しくても、私をはぐくむ方がおられる、私を慰めておられる主イエス・キリストが常に共にいてくださるという、神の愛に信仰を持って生きることが、私たちの魂の平安を得ています。

★ 愛の終末

その魂の平安とは、人生の終末の時に今までおぼろげであった神を「顔と顔を合わせて見るようになる」という希望をもっているからです。キリストの愛が私たちのうちに完成された終末には、永遠なるものの御前に立つことを信じているからです。パウロは信仰と希望と愛がいつまでも残るといい、その中で最も大きいなるものは、愛であると言います。(幼児祝福式説教)

日常の中で永遠なる思い

長老 齋藤 造酒雄

10月31日にルターの宗教革命記念日ではなかったかと思ひ、再び「アメリカナ・百科事典」に当たったら、35年前にも読んだと記してある。このアメリカナについては6月末に牧師がギリシャ、イタリアに研修旅行に行かれた際の小生の説教でも触れている。

当時のカトリック教会の免罪符の事柄などに反抗して、95か条の文章をウィッテンベルグの城の教会ドアに貼り付けた。ルターの信仰とは結婚を人生の神聖な秩序と考えたこと。実体変化（パンとぶどう酒が聖餐式でキリストの肉と血に変えられること）はおかしいと考えたこと、などが書いてあるが、その他父はルターを弁護士にさせたかったようだが、若い頃激しい雷雨に出会った時に、友人が死んだのに自分が助かったのを切っ掛けに、修道士になる決意をしたという。

木曜日の聖書研究会のために2, 3週間ほど前に「予定説」を調べたら、教文館の

「旧約新約聖書大事典」に出ていないのだ。おかしいと思ひながら「広辞苑」に当たったら「キリスト教神学において、人間は救われるか滅びるかあらかじめ定められているとする説」とある。一方研究社 College

Lighthouse の Predestination を調べると「この世のあらゆる出来事はあらかじめ神に定められているとする説」とある。では上記 Americana には「英国教会の3

9か条」の17条に「人生の予定説とは神の永遠の目的である」とある。マタイ22章14節「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」。ロマ書1章7節「神に愛され、召されて聖なる者となったローマの人たち一同へ」、8章28節「神を愛するものたち、つまり、ご計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くと言うことを、わたしたちは知っています」

コリント一の1章2節「・・・召されて聖なるものとされた人々へ」などと「召された」という言葉が全てに入っている。

しかしパウロは具体的な運命(の力)の方向に動いているようで、例えばロマ書8章30節の「あらかじめ定めたものたちを更に召し、召したるものたちを更に義とし、義としたものたちには更に栄光を与え

て下さったのである」とも説明してある。

ロマ書9章21〜24節には「異邦人の中からも召されたのである」ともある。牧師はルターが雷に出会っても死ななかつたのも神の予定説だったのでろうと言われた。

昨日(日曜の朝)「朝日」の Culture、

Bestsellers in Paris のページを読んでいたら「神の国」という新刊の紹介があり、そこに次の文章があった。「イエスの死から聖書が成立するまでのキリスト教初期は神秘に満ちている。磔刑に掛けられた一人の男の惨めな死。そこに端を発して、キリスト教は不滅のローマ帝国を内部から侵食し、3世紀の間に覆ってしまった。これは一体どうゆうわけなのか。カレルは探偵のように、歴史資料を縦横に駆使しつつ、2000年前の物語を現代に引きつけながら検証してゆく。柱は、当初キリスト教の迫害者でありながら啓示を受けて最大の福音者となったパウロと、彼とある時期行動を共にしながら、後に四つの福音書の一つを執筆した医者(の)ルカ、そのふたりだ。パウロがいなかったら、キリスト教はキリスト教たりえなかつたらう。」(Glove G100

浅野素女)

牧師館便り

☆皆様お元気ですか。

「葡萄酒の香」第十二号をお送りします。酒田の冬は雷と共にやって来ます。大地に浸るように雪雲がかかり、稲妻が走ります。太平洋側にはない風景で、北イギリスの地域が描かれてある小説をいくつか思い出して、興味深く眺めています。

★今年のクリスマスは、説教者に東北学院大学の佐藤司郎教授を招いて礼拝を守ります。私の組織神学、説教学の先生です。

クリスマス・イブ礼拝は、キャンドル・サービスでクリスマスの讃美歌を沢山歌う讃美礼拝、説教者は塚本恭子牧師です。

★今聖書研究会は「使徒言行録」5章に入り私がこの夏にパウロの第二宣教伝道の後を旅行したことを思い出しながら、写真をもとに旅行の足取りを説明します。

カバラ（ネアポリス）に、パウロが上陸を記念した教会である聖ニコラオス教会を訪ね、パウロが歩んだエグナチア街道を足踏みし、その後フィリピの町を見学し、フィリピ総督の権力を示す広大な遺跡を訪ねる。パウロが閉じ込められた牢を見学し地震が来て助けられアゴラに連れて来られた

跡地。解放されたパウロはそのあとユダヤ人の祈りの場で清水の流れるルデアへ。

テサロニケでは、考古学博物館、デIMITリウス教会を訪ね見学し、広大なアゴラ遺跡の上に立って感激し、バスで城壁の後をたどり、上の町からテサロニケの町を一望する。と思い出して聖書研究。

★教会の内外の塗装をしました。外壁を白一色に塗装し、赤い屋根と調和して大正時代の趣のある酒田教会になりました。礼拝堂もどっしりとした濃いチョコレート色の腰板と黒い梁、白い壁で、十字架も講壇と同じ色を薄めに塗り、日焼けしたドアがすっきりもど通りの重みのある色に、厳かな礼拝堂になりました。塗装の奉仕の方々に感謝します。

教会堂の古い大きな本箱は廃棄し、本は3階の祈祷室に運び、読書の部屋としました。心地よい光が入りなかなかの空間です。その本箱の後に幼稚園で使用のピアノを置きます。讚美にはピアノは欠かせません。幼稚園にピアノがなくなるのでは。いや、もう一台ピアノがあるのです。それを園児は使用します。

★教会付属施設である愛する幼稚園と託児園は、来春からあらためて学校法人酒田

双葉学園となり、理事長に齋藤正典先生を迎えます。幼保連携型認定こども園を選択し、託児園は第3号認定、幼稚園は第2号認定の園児たちで、保護者の収入によって保育料が決定する保育所に準じる園になります。入園も市役所の紹介となります。補助金による安定した経営が約束されています。園児も私が就任した3年前と比べたら倍近く数が増えて喜んで教育と保育に勤んでいます。

★私の体調なのですが、相変わらず冬は弱いです。今年も咳き込んで、なかなか風邪が治らないです。その上、先日八戸へ新制度の説明会があったので出張をしたのですが、秋田の新幹線こまちに乗るために移動中、駅の階段から転けて、膝を打撲、全治二〇間のけがをして歩けませんでした。相変わらずのオツチヨコチヨイであわてんぼうです。いまは歩けるようになりました。

★私の愛犬のトイ・プードルは4歳になります。ふたば園の主になり、知らない人が来ると吠えるという番犬にも成っています。先生方にもしっぽを振りながらかわいがってもらっています。園児のアイドルで鼻を突かれています。（塚本恭子）